

## 第4章 第三次計画策定にあたっての考え方

### 1. 計画の目的

多摩市子どもの読書活動推進計画（第一次、第二次）は、子どもが読書活動を行う環境を整えるため、家庭、学校、地域、市立図書館それぞれにおいて、子どもの読書活動を推進するための課題を明らかにし、市と市民、関係機関が連携して取り組む諸方策を示すことを目的として策定しました。

第三次計画は、これまでの取り組みを振り返りその結果を考察して、次の段階の課題を設定し、本計画を実施することで、より一層子どもの読書活動の推進が達成されることを目的として策定するものです。

### 2. 計画の期間

平成30年度～平成35年度（2023年度）までの6年間

### 3. 基本理念

#### 「すべての子どもに読書のよろこびを」

読書のよろこびは、本の世界の楽しさやすばらしさを体験し、いろいろな考えや生き方にふれ、自分の考えを深め、悩みや苦しみを乗り越える力を与えられるなど、さまざまです。このような読書のよろこびを、是非とも子どものときに感じて、豊かな心を育み、未来への可能性を広げてほしいものです。

さて、近年の子どもを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォンなどの情報媒体の普及で大きく様変わりしています。このような情報社会で成長する子どもは、多くの情報から適切な情報を見つけ出し、自分で学習し、将来や進路等について考える能力を身につけていくことが必要となっています。

「読書」の意義は子どもにとってますます広く、深いものとなってくることでしょう。

第三次計画の基本理念は、この読書の普遍性に着目し、第一次計画策定で設定した「すべての子どもに読書のよろこびを」を継承します。（第一次計画からの基本理念の継承）

#### 4. 基本目標

第三次計画は、第二次計画との継続性を重視することから、「基本理念」の下にある「基本目標」についても、第二次計画と同じ次の3本とします。

基本理念を達成するための3つの基本目標

基本目標Ⅰ 本の楽しさを子どもたちに

～本に親しむ機会の充実～

基本目標Ⅱ いつでもどこでも本はともだち

～読書環境の整備と充実～

基本目標Ⅲ みんなでつながり育てあう

～人材の育成、関係機関等との協力・連携～

## 5. 計画の対象

本計画は、おおむね0歳から18歳までを対象としています。

子どもたちの成長段階や状況にあわせた読書活動の支援が必要であることを踏まえ、対象を5つに区分しました。

### (1) プレママパパ・乳児

これからあかちゃんを迎えるプレママパパが絵本に親しむ時期。はじめて言葉に出会い、保護者等の読み聞かせなどを通じて読み手のぬくもりを楽しむ赤ちゃんの時期です。

### (2) 幼児

一対一の読み聞かせのほかに、集団で読み聞かせのおはなしを楽しみ、友だちとその世界を共有できるようにもなる時期です。

### (3) 小学生

引き続き幼児期からの読み聞かせを楽しむとともに、文字が読めるようになり、一人読みが始まり、また自分を見つめはじめ、自己と対話しながら読書をとおしていろいろな生き方にふれる時期です。また、学校での調べ学習等を通して社会との関わりに興味をもつ段階です。

### (4) ティーンズ

おおむね13歳から18歳までの子どもを対象とします。多様な生き方、考え方にふれながら自己を確立していく時期であり、また様々な媒体を通じて知識、情報を取り入れることが出来るようになります。

### (5) 支援が必要な子ども

心身に障がい等のある子ども、長期入院をしている子ども、何らかの理由で学校に登校していない子ども、日本語を母語としていない子ども、印刷物を読むのが難しい子ども、本に触れる機会に恵まれていない子どもなど、自ら読書をするためには、周囲の支援を必要としている子どもがいます。

## 6. 第三次計画策定における視点

これまでの10年間余の実績を踏まえての第三次計画は、これをより一層、実効性の高いものとしていくために、策定にあたってまず次の2つを、視点として設定しました。

### 第三次計画策定における視点

#### 1 市立図書館と学校図書館を軸とする読書環境の整備、充実

学校図書館は子どもにとって一番身近な図書館です。

このことから、公共図書館である市立図書館と、日常活用できる学校図書館双方の環境整備を一層図ることで、効果的な子どもへのアプローチを目指すものです。

#### 2 第一次、第二次計画から続く課題に対する着実な施策の推進

第一次、第二次計画を振り返り検証すると、十分な取り組みが出来ていないものがあります。

このことから第三次計画では、これら課題となっている事項に対し集中的に取り組めるように施策を設定し、着実な取り組みを推進することを目指します。

⇒下記「7. 5つの重点施策」へ

## 7. 5つの重点施策

全施策の中から、第2章 2. 第三次計画策定に向けての課題（1）、（2）等を踏まえ、効果的、集中的な取り組みが必要な施策については、これを重点施策として設定することとしました。

検討の結果、次の5つを重点施策としました。

- 1 蔵書の充実・活用 (施策番号 5)
- 2 学校図書館の環境整備及び機能の充実 (施策番号 7)
- 3 市立図書館の整備・機能の充実 (施策番号 8)
- 4 支援の必要な子どもたちへの取り組みの推進 (施策番号 9)
- 5 担当職員による児童サービス・ティーンズサービスの充実 (施策番号10)

【「計画の体系図」「施策表」施策5, 7, 8, 9, 10 参照】

## 8. 計画の推進

### (1) 第三次計画の推進における基本姿勢

計画推進にあたっては、「第二次計画を推進するための重点方針」を継承し、これを新たに「第三次計画の推進における基本姿勢」とします。

#### 第三次計画の推進における基本姿勢

- 1 乳幼児期から身近に本のある生活の重要性を保護者へ伝え、読書活動の推進を図る。
- 2 子どもの自主的な読書活動への支援
- 3 読書活動や図書館利用がしにくい子どもへの読書の提供

(2) (仮称) 子どもの読書活動推進連絡会を設置し、市民、関係機関等と連携しながら読書活動を推進します。

(3) 計画の進捗状況、評価について、図書館を中心に進行管理をしていきます。

(4) 本計画は状況に応じて見直しをしていきます。

## 9. 評価指標（数値目標）

第四次計画策定時に、第三次計画の実績を検証、評価する際のひとつの目安として、評価指標（数値目標）を設定します。

今回のアンケート結果および利用団体データから、次の3つを選択しました。

【 】内は今回の数値の根拠

### 指標1

「お子さんと本を楽しんでいますか？」に対して、  
「いつもしている」、「ときどきしている」と答える割合

【資料編 健診受診者等（乳幼児を持つ保護者）アンケート結果 4】

「子どもと本を楽しんでいる」と答える保護者は、お子さまとの間でおおむね良好な読書環境ができていると考えます。

プレママパパへの働きかけ、絵本かたりかけ事業（ブックスタート）など各健診の機会を利用した情報提供等をより充実させること等により、この割合が今後も増加することを目指します。

	今回の数値		目標数値
1歳6ヶ月児健診受診者	95%	→	99%
3歳児健診受診者	88%	→	95%

（目標数値の考え方）

今回、すでに高い値（パーセント）となっておりますが、最終的には100%を目指すための目標数値を設定しました。

1歳6ヶ月児健診受診者は、99%（4ポイント増）、

3歳児健診受診者は、95%（7ポイント増）を目指します。

（主な施策）

施策番号3 おはなし会、イベントの充実

施策番号4 保護者への働きかけ

施策番号6 読書コーナー・絵本コーナー等の設置、充実

## 指標2

### 多摩市内全保育園、幼稚園における団体貸出の利用率

【多摩市立図書館における利用団体データに基づく数値

(調査年度に貸出を受けている団体数)】

多摩市立図書館の団体貸出を利用することで、園児やその保護者がより多くの絵本等に触れることができます。現在、学校への団体貸出は活発に行われていますが、保育園・幼稚園の利用は低率です。

また、第二次計画から継続している課題のひとつに「私立保育園・幼稚園への働きかけ」があります。

このことから、今後は保育園・幼稚園への積極的な情報提供、より利用しやすい団体貸出制度の検討等を進め、団体貸出を利用する園の増加を目指します。

	今回の数値		目標数値
保育園	33%	→	50%
	(7園/21園)		(11園/21園)
幼稚園	11%	→	50%
	(1園/9園)		(5園/9園)

認定子ども園は幼稚園でカウントする。

(目標数値の考え方)

保育園、幼稚園いずれも、全体の半数が団体貸出の利用団体となることを目標とします。

(主な施策)

施策番号5 蔵書の充実・活用【重点施策】

施策番号6 読書コーナー、絵本コーナー等の設置、充実

### 指標3

#### 読書について、「好き」「どちらかといえば好き」と答える 児童、生徒の割合（マンガ、雑誌は入れない）

【資料編 小学生・中学生・高校生の比較 1】

読書に対する好感度をたずねる質問です。

今回の回答数値は、前回（平成24年調査）の結果と比較すると、横ばい（小学2年生）と減少（小学5年生、中学2年生）となっていることから、改善を目指すべき数値としました。

また10代の子ども向けサービスの充実は、第一次、第二次計画から継続している課題です。

このことから、5つの重点施策の確実な推進と共に、第三次計画全体を総合的に推進していくことで、一人でも「読書」が苦手な子どもが「読書好き」になり、本数値が増加していくことを目指します。

	平成24年		今回の数値		目標数値
小学2年生	93%	→	93%	→	95%
小学5年生	89%	→	84%	→	90%
中学2年生	79%	→	75%	→	80%
高校2年生	—	→	69%	→	75%

#### （目標数値の考え方）

読書の好きな子どもが減少傾向にある現状を、まずは平成24年の数値まで回復させること。そして前回の数値を若干上回る数値を目標としました。

（2～6ポイントの増）

なお、高校2年生については比較データがないため、今回の数値より6ポイント増を目指します。

#### （主な施策）

施策1～14のすべて